



MIXER

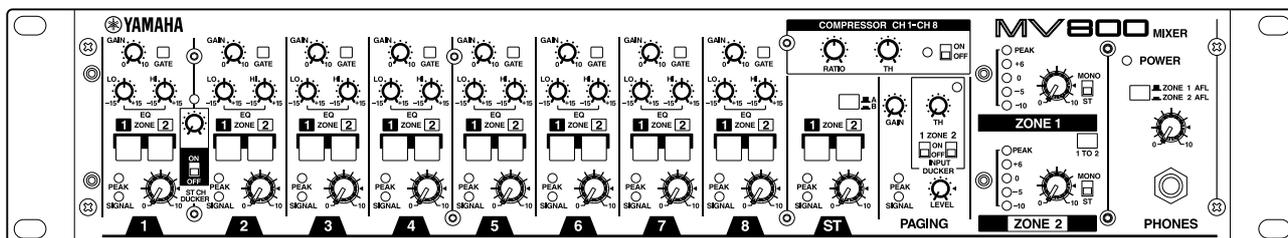
MV800

取扱説明書

このたびは、YAMAHAミキサーMV800をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

MV800は、BGMやカラオケなどの機器とマイク入力をバランスよく、簡単に扱うことができるミキサーです。会場を2つのゾーンに分けて使う場合も、配線を変えることなくMV800のパネル上の設定だけでそれぞれのゾーンに対して操作することができるので、パーティ会場などに最適です。

MV800の優れた機能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



！安全上のご注意

安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



：注意(危険・警告を含む)を促す事項



：決しておこなってはいけない禁止事項



：必ずおこなっていただく強制事項



警告

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置されるとき	使用中に異常が発生したとき
 <p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用はとくにご注意ください。</p> <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かずに重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご確認ください。</p> <p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。</p>	 <p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>  <p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>  <p>煙が出る、変なおいや音がするなどの異常がみとめられたときや、内部に水などの異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>  <p>プラグをコンセントから抜く</p>
ご使用になるとき	
 <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。</p>	
 <p>分解禁止</p> <p>この機器の保護カバー以外は、絶対に外さないでください。(付属のユーロブロックコネクタのケーブル接続についてはP8を参照ください)</p> <p>感電の原因となります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、販売店にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>	
 <p>プラグをコンセントから抜く</p> <p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>	
 <p>接触禁止</p> <p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>	

! **注意** この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置される時



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。

この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの右/上/底部には通風孔があけてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

とくに次のような使い方は避けてください。

- ・ 機器をあくお向けや横倒し、逆さまにする。
- ・ 本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。
- ・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。



オーディオラックなどに入れるときは、放熱をよくするために、壁や他の機器との間に隙間をとってください。

隙間の大きさは、側面では10cm、背面では40cm、天面では30cm以上必要です。

さらにラックの背面を開放するか、もしくはラックの背面に相当の通風孔を開けてください。

放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

！ 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

XLRタイプコネクターのピン配列は次のとおりです。
1:シールド(GND) 2:ホット(+), 3:コールド(-)
これは、IEC60268規格に基づいています。

XLRコネクター・フォンジャックのピン配列は、P7のコネクターの極性(表)を参照ください。

本機において付属セキュリティーカバーは、専用ネジにて取り付けるようになっています。
また、ユーロブロックコネクター配線後、保護カバーを元の位置に取り付ける際のネジは、はじめに保護カバーを取り付けていたものをご使用ください。
それら以外のネジにて取り付けますと故障の原因になります。

スイッチ・ボリューム・接続端子などの部品は、摩耗部品といわれ、使用とともに性能が劣化します。劣化の進行度合は、使用環境などによって大きく異なりますが、劣化そのものを避けることはできません。劣化した摩耗部品の交換は、販売店にご連絡ください。

この機器のすぐ近くで携帯電話などを使用すると、機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で電話をしてください。

特長

8チャンネルのモノラル入力端子とA/B2チャンネル(切替式)のステレオライン入力端子と、2系統のステレオ出力を装備したミキサーです。

モノラル入力端子には入力切替スイッチを装備。ダイナミックマイクロフォンはもちろん、外部電源の必要なコンデンサーマイクロフォン、ラインレベル機器まで幅広く対応できます。

モノラルチャンネルには、チャンネルごとに独立したノイズゲートスイッチを装備しています。ノイズや周囲の雑音をマイクで拾うことを防げます。

モノラルチャンネルに有効な、コンプレッサー回路を装備しています。ハウリングやマイクを落とした場合などの不意の大量音を防ぐことができます。

1/2チャンネル用のダッカー回路を装備しています。1/2チャンネルのマイクを使う(話す)だけで、ステレオライン入力端子のBGMの音量を自動で下げることができます。

インプットチャンネル1~8にINSERT IN/OUT端子を搭載。チャンネルごとに個別のエフェクターを接続できます。

モノラルおよびステレオチャンネルはもちろん、REC OUT、OUTPUT端子まで、2つのゾーンバスに対応した設計になっています。MV800一台で、2部屋の音響をコントロールすることもできます。

テープデッキへの録音を手軽に行える、REC OUT端子をZONE 1,2それぞれに装備しています。

主要な入出力端子には、XLR端子フォン端子の他にユーロブロックコネクタも併設しています。

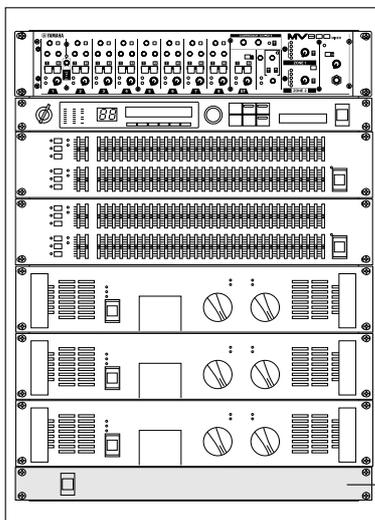
緊急放送などに有効なペイジング機能を搭載しています。緊急放送用のコントロール信号(DC 24V)用の入力端子も装備しています。

パネル上のスイッチやコントローラーの設定を保護するための、セキュリティーカバーを付属しています。

目次

各部の名称と機能	3
フロントパネル部	3
ステレオチャンネル& マスターコントロール部	4
リアパネル部	6
付属品について	8
MV800の機能について	9
セットアップ例	10
付録	13
仕様	13
寸法図	15
ブロック/レベルダイアグラム	16

ラックにセットしてご使用になる場合の注意



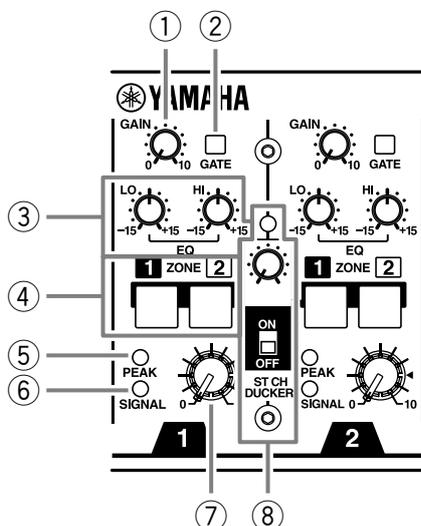
本機(MV800)の電源スイッチはリアパネルにあります。ラックにセットしてご使用になる場合は、パワーディストリビューター(電源制御ユニット)等、外部パワースイッチを設けてください。

—— パワーディストリビューター(電源制御ユニット)等

各部の名称と機能

フロントパネル部

チャンネル 1 ~ 8
(モノラル)



① GAINコントロール

入力信号レベルに応じ、最適なレベルで入力できるよう、このつまみで感度を調整します。

⑤のPEAKインジケータがたまに点灯する程度に設定すると、S/Nとダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態になります。

② GATEスイッチ

ノイズゲートのON/OFFスイッチです。

ON(■)にすると、一定レベル以上の信号がチャンネルINPUT端子に入力されたときのみ、入力信号として感知します。これにより、ノイズや周囲の雑音など(一定レベル以下の音)を削除することができます。(詳しくはP9をご覧ください)

* スイッチのON/OFF切り替えは、スイッチ形状よりも先端が細い絶縁体を使って行ってください。

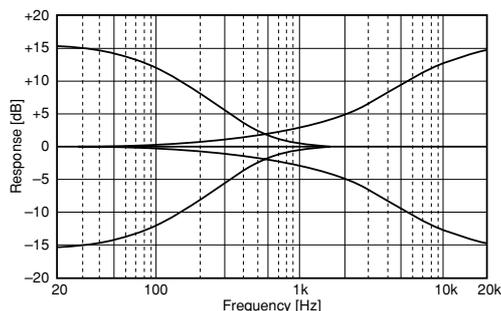
③ イコライザー

高域、低域の各レベルを下記の基準周波数にて、最大可変幅 ±15dBの範囲で調整します。

HI : 10kHz(シェルピング)

LO : 100Hz(シェルピング)

つまみの位置が中央のときにフラットな特性となります。



④ ZONE選択スイッチ

各チャンネルの信号をZONEバス1、ZONEバス2に出力するスイッチです。

スイッチがオン(■)になっているときには、そのバスに信号が送られます。

⑤ PEAKインジケータ

ポストEQのピークレベルを検出します。

レベルが+17dBに達すると赤く点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。

⑥ SIGNALインジケータ

ポストEQにおいて信号レベルがノイズゲートのスレッシュホールドレベルを越えると点灯します。

信号が途切れてしばらくすると消灯します。

⑦ チャンネルボリューム

インプットチャンネルの信号の送り出しレベルをコントロールし、チャンネル間の音量バランスを調整します。

* 使用しないチャンネルのボリュームは下げておきます。

⑧ ステレオチャンネルダッカー

インプットチャンネル1と2には、一定量以上の入力信号があるとST入力端子からの信号の音量を自動的に下げる“ダッカー機能”があります。(詳しくはP9をご覧ください)

ダッカーON/OFFスイッチ

ダッカー機能のON/OFFを切り替えます。

ダッカーインジケータ

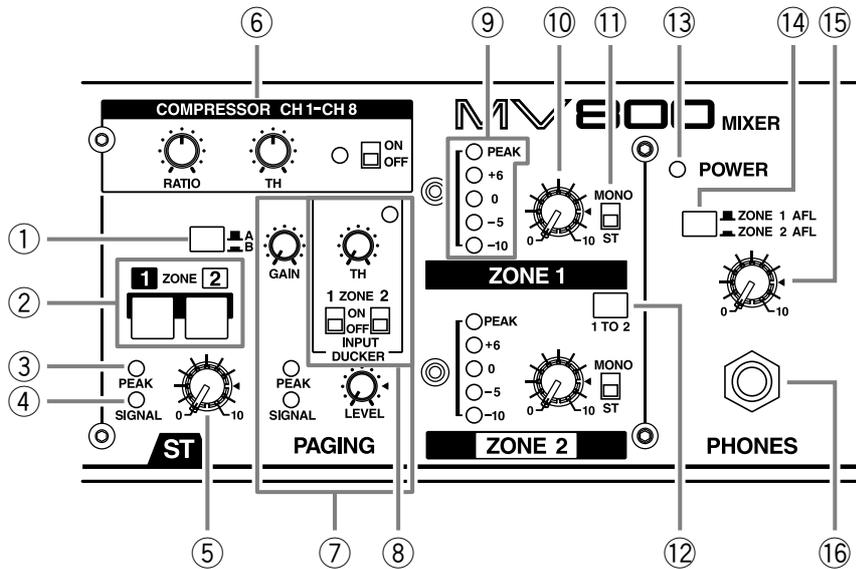
ダッカー機能が動作中に点灯します。

ダッカーアッテネータ

ダッカー機能が動作した際、ST入力端子からの信号をどの音量にまで下げるかを設定します。

右に回すほど、音量が下がります。

ステレオチャンネル&マスターコントロール部



- ① ST入力切替スイッチ
2系統あるST入力端子A、Bの、どちらの入力信号を出力するかを選択するスイッチです。
(■)でST入力端子A、(■)でST入力端子Bが選択されます。
- ② ZONE選択スイッチ
P3④と同じです。
- ③ PEAKインジケータ
ポストバッファアンプのピークレベルを検出します。
レベルが+17dBに達すると赤く点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。
- ④ SIGNALインジケータ
ポストバッファアンプにおいて信号レベルが-10dBを越えると点灯します。
- ⑤ チャンネルボリューム
P3⑦と同じです。
- ⑥ コンプレッサー
TH(スレッシュホールド)コントロールで設定したレベル以上の入力があった場合、その信号のレベルを制限する機能です。インプットチャンネル1~8すべてにかかります。(詳しくはP9をご覧ください)
コンプレッサーON/OFFスイッチ
コンプレッサー機能のON/OFFを切り替えます。
コンプレッサーインジケータ
コンプレッサー機能が動作中に点灯します。

- THコントロール
コンプレッサー機能が働き始める入力レベル(スレッシュホールドレベル)を設定します。右に回すほど低いレベルでもコンプレッサー機能が働きます。
- RATIOコントロール
スレッシュホールドレベル以上の信号を抑制する圧縮率を設定します。右に回すほど強力に圧縮されます。左いっぱいには回すと圧縮されません。
- ⑦ ペイジング
各インプットチャンネル(1~8, ST)およびINSERT IN, STACK IN端子入力の信号をすべて遮断して、PAGING MIC/LINE入力端子に接続したマイク/ライン入力を出力する機能です。緊急放送用のコントロール信号にも対応しています。(詳しくはP9をご覧ください)
ペイジングGAINコントロール
PAGING MIC/LINE入力端子の入力感度を調整します。PEAKインジケータがたまに点灯する程度に設定すると、S/Nとダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態になります。
ペイジングPEAKインジケータ
PAGING MIC/LINE入力のポストヘッドアンプのピークレベルを検出します。
レベルが+17dBに達すると赤く点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。
ペイジングSIGNALインジケータ
PAGING MIC/LINE入力端子のポストヘッドアンプにおいて信号レベルが-10dBを越えると点灯します。

ペイジングLEVELコントロール
PAGING MIC/LINE入力の信号の送り出しレベルをコントロールし、音量を調整します。

⑧ ペイジングインプットダッカー

ペイジングTHコントロール
MIC/LINE端子入力にどれくらいの入力信号を検出したら、ペイジング動作に切り替わるかを設定します。右に回すほど低いレベルの入力でもペイジング動作に切り替わります。

ペイジングインジケータ
ペイジング動作になると点灯します。

ペイジングゾーン選択スイッチ
ペイジング動作により、PAGING MIC/LINE入力を出力するゾーンを選択します。このスイッチをONに設定したゾーン出力端子 (ZONE 1, 2) に、PAGING MIC/LINE入力からの信号が送られます。

⑨ レベルメーター

ゾーン出力端子 (ZONE 1, 2) への出力信号レベルをLEDで表示します。

0の位置が規定レベルを示し、クリッピングレベルが近づくとPEAKが赤く点灯し警告します。

⑩ ゾーンボリューム

ゾーン出力端子 (ZONE 1, 2) へ出力される信号のレベルを調整します。

⑪ ST/MONO切替スイッチ

ST入力端子からの信号をステレオとしてゾーン出力端子 (ZONE 1, 2) に送る場合はST側に、L, Rをミックスしたモノラルとして送る場合はMONO側に設定します。

⑫ ZONE 1 TO 2スイッチ

このスイッチをON(■)にすると、ゾーン1(プリボリューム)信号がゾーン2のプリボリューム位置にも送り出されます。このときゾーン2出力端子には、ゾーン2ボリュームでレベル調整されたゾーン1(プリボリューム)信号が出力されます。

⑬ POWERインジケータ

本機の電源がオンのときに点灯します。

⑭ ZONE AFL切替スイッチ

PHONES端子に送る信号を選択するスイッチです。

スイッチを押してZONE 1(■)、ZONE 2(■)を切り替えます。

⑮ ヘッドフォンボリューム

PHONES端子へ出力される信号のレベルを調整します。

⑯ PHONES端子

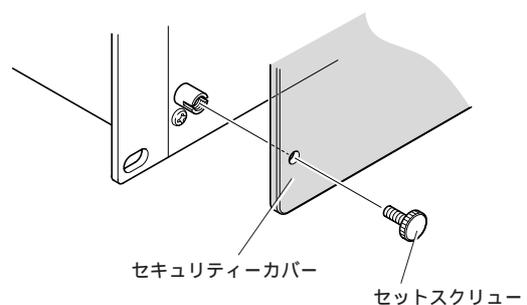
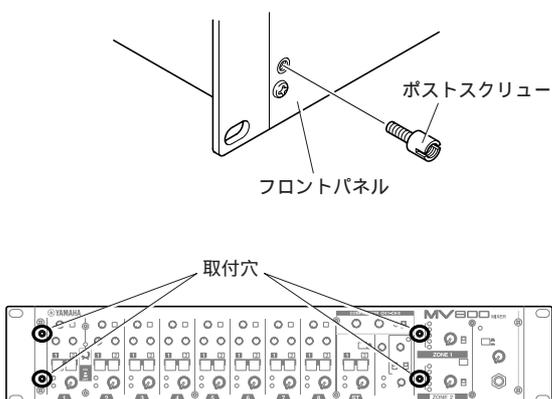
ヘッドフォンを接続する、ステレオフォンタイプの出力端子です(規定出力/適合インピーダンスは30mW/40Ω)。

セキュリティカバーの取り付け

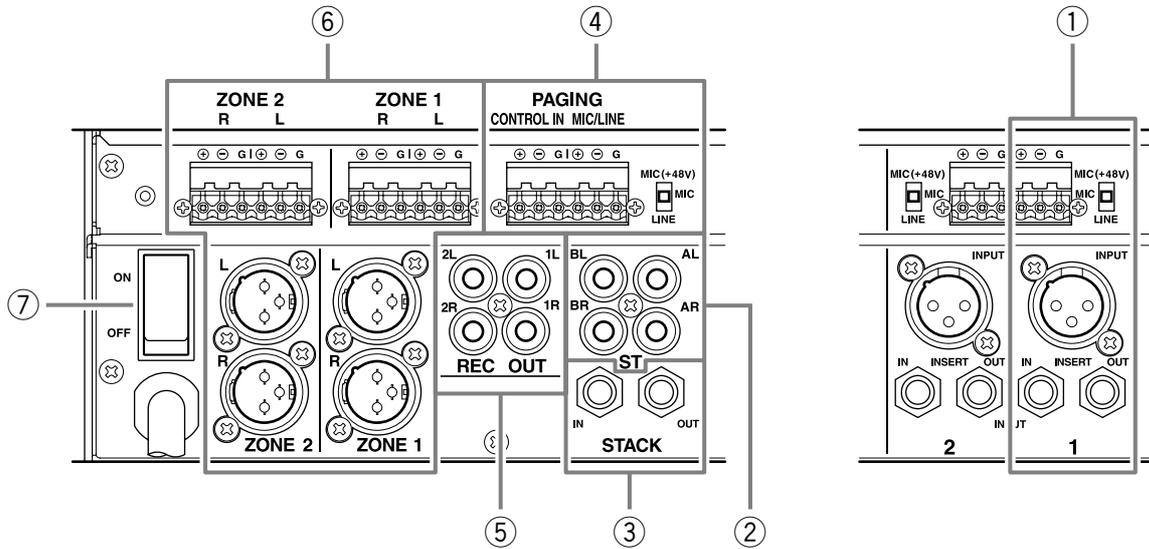
本機には、1~8, STチャンネルおよびコンプレッサー、ペイジングの操作部用のセキュリティカバーが付属しています。マイク、ライン機器などを接続し、それぞれの設定を行った後、各スイッチやつまみを不用意に動かされないことがないように、必要に応じてセキュリティカバーを取り付けてください。

1. フロントパネルの取付穴(4ヶ所)にポストスクリューを取り付けます。

2. ポストスクリューに合わせて、セキュリティカバーをセットスクリューで取り付けます。



リアパネル部



① チャンネル入力(1~8)

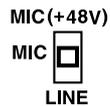
INPUT端子

バランス型XLRタイプとユーロブロックコネクタの2種類の端子が装備されています。

- ・ XLRタイプ(1: グランド、2: ホット、3: コールド)
- ・ ユーロブロックコネクタ
- (⊕: ホット、⊖: コールド、G: グランド)

入力切替スイッチ

入力切替スイッチにより、INPUT端子に接続するマイクや機器のタイプを選択することができます。



・ MIC(+48V)

コンデンサーマイクロフォンなどを接続できます。XLRタイプコネクタの2-1ピン間と3-1ピン間およびユーロブロックコネクタの⊕ GNDピン間と⊖ GNDピン間にDC + 48Vが供給されます。

* MIC(+48V)を必要としないときは、必ず入力切替スイッチをMICまたはLINEにしておいてください。

注：MIC(+48V)の位置にした状態でバランス型ダイナミックマイクロフォンやラインレベル機器を接続してもさしつかえありませんが、アンバランス型機器やトランスのセンターがアースされていない機器を接続すると、ハムや故障の原因となります。

- ・ MIC : 50 ~ 600 のマイクロフォンに対応します。
- ・ LINE : 600 のラインレベル機器に対応します。

INSERT IN端子

INSERT OUT端子

インプットチャンネルの、ノイズゲートとチャンネルボリュームの間に設けられた入出力端子です。INSERT IN端子はバランス型フォントタイプで、規定入力レベル/適合インピーダンスは0dB/600 です。INSERT OUT端子はインピーダンスバランス型フォントタイプで、規定出力レベル/適合インピーダンスは0dB/10k です。お手持ちのグラフィックイコライザーやコンプレッサー、ノイズフィルターなどを接続できます。

② ステレオ入力(ST AL・AR, BL・BR)

RCAピンタイプの、ステレオのライン入力端子です。600 のラインレベル機器に対応します。A, B 2系統接続でき、フロントパネルのST入力切替スイッチでA, B どちらの信号を出力するかを選択します。

③ スタックイン/アウト端子

・ STACK IN

アンバランス型フォントタイプのライン入力端子で、規定入力レベルおよび適合インピーダンスは0dB/600 です。Tip信号がゾーン1バスへ、Ring信号がゾーン2バスへ送られます。補助の入力として利用できます。また、リバーブやディレイなどの外部エフェクターからのリターン信号を受けるのにも使用できます。

・ STACK OUT

アンバランス型フォントタイプの出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは0dB/10k です。

コンプレッサー回路を通ったゾーン1, 2パスの信号を出力します。Tipにゾーン1信号が、Ringにゾーン2信号が送られます。複数のMV800を連結して使用する際、メインのMV800に信号を送り出します。外部機器に信号を送るのにも使用できます。

④ ペイジング入力

MIC/LINE入力端子

ペイジング動作時に流すソース機器(カセットデッキ等)またはマイクを接続します。

50 ~ 600 のマイクロフォンおよび600 のラインレベル機器に対応します。

入力切替スイッチ

MIC/LINE入力端子に接続するマイクや機器のタイプを選択するスイッチです。①チャンネル入力の入力切替スイッチと同じ機能です。

CONTROL IN端子

緊急放送用のコントロール信号(DC 24V)用の入力端子です。

⑤ REC OUT(1L・1R, 2L・2R)端子

外部のDATレコーダーやカセットレコーダーを接続し、ZONE OUT端子と同じ信号を録音するための端子です。1L・1Rにはゾーン1の信号が、2L・2Rにはゾーン2の信号が出力されます。

この端子から出力される信号は、ゾーンボリュームの影響は受けません。録音レベルの調整はレコーダー側で行ってください。またZONE 1 TO 2スイッチの設定も無効です。

⑥ ゾーン出力(ZONE 1 L・R, ZONE 2 L・R)端子
ミキシングされた信号のステレオ出力部で、メインスピーカーを駆動するパワーアンプなどを接続します。バランス型XLRタイプとユーロブロックコネクターの2種類の端子が装備されています。

・ XLRタイプ(1 : グランド、 2 : ホット、 3 : コールド)
規定出力/適合インピーダンスは + 4dB/600 です。

・ ユーロブロックコネクター

(⊕ : ホット、 ⊖ : コールド、 G : グランド)

規定出力/適合インピーダンスは + 4dB/600 です。

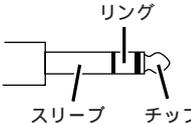
⑦ POWERスイッチ

オンにすると電源が入ります。

電源を入れるときは、MV800の電源を先にオンし、その後、接続されているパワーアンプまたはパワードスピーカーの電源をオンしてください。

また、電源を切るときは、パワーアンプまたはパワードスピーカーの電源を先にオフし、その後にMV800の電源をオフしてください。

コネクターの極性

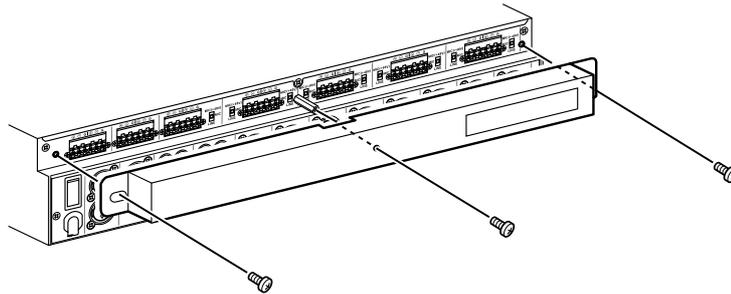
INPUT, ZONE OUT	Pin 1 : グランド Pin 2 : ホット(+) Pin 3 : コールド(-)		
INSERT IN INSERT OUT	Tip : ホット(+) Ring : コールド(-) Sleeve : グランド		
STACK IN STACK OUT	Tip : ZONE 1 Ring : ZONE 2 Sleeve : グランド		
PHONES	Tip : L Ring : R Sleeve : グランド		

付属品について

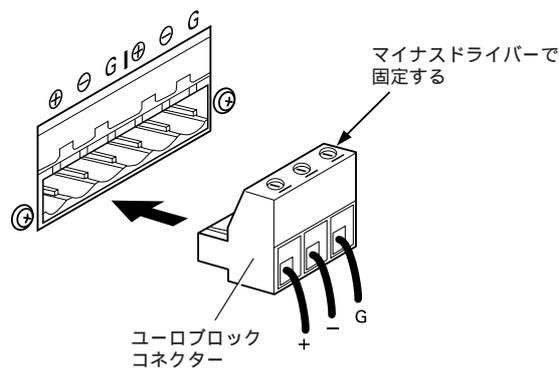
ユーロブロックコネクタ

ユーロブロックコネクタをご使用になる場合は、付属のコネクタを使い、下図のように取り付けてください。

- ① POWERスイッチをOFFにします。
- ② カバー取付用ネジをゆるめて、保護カバーを外します。



- ③ ユーロブロックコネクタを取り付けてください。



1. 線材の差し込み口が閉じている場合は、上部のネジを左に回して開けます。
2. 端子の極性表示に従って線材を差し込み、上部のネジを右に回して線材を固定します。
3. ユーロブロックコネクタを本体側端子に装着します。

- ④ カバーを元の位置に取り付けます。

⚠ カバーを取り付けずに使用すると、感電の危険があります。

レッグ

本機にはレッグ(脚)4個が付属しています。

設置場所の状況に応じて、底面となる面にレッグを貼ってお使いください。

本体側接着面のゴミや汚れを拭き取った後、レッグ上面の粘着テープ保護紙をはがして貼り付けてください。

MV800の機能について

ノイズゲート(GATE)機能について

使われていないマイクが不要な音を拾ってしまうことがよくあります。これを防ぐためには、その都度マイクのスイッチを切るか、MV800のチャンネルボリュームを0にしなければなりません。このようなわずらわしい操作から開放してくれる機能にノイズゲートがあります。

これは、マイクに向かって話すなど、ある一定レベル以上の音量がマイクに入力されたときのみ自動的にマイク入力が働き、それ以外のとき(たとえば周囲の雑音など)は働かないというものです。これによりミキサーの操作が大幅に減り、また、ハウリングを抑制する効果もあります。

設定するときは、GATEスイッチをオン(■)にします。

また、特に小さな声でお話しになるときは、オフ(□)にしておくことをおすすめします。

コンプレッサー機能について

スピーチやカラオケで突然大声になった場合、そのまま増幅されてスピーカーから聞こえたのではたまりませんから、すばやく音量を下げる必要があります。しかし実際にはそのような操作は大変難しく、音量を下げたときはすでに手遅れというケースが大半でしょう。このような場合のためにコンプレッサー機能があります。

これは、一定レベル以上の入力信号があった場合に出力レベルを制限する機能です。

設定するときは、コンプレッサーのON/OFFスイッチをON側ににします。

コンプレッサー機能が働き始める入力レベルの設定はTH(スレッシュールドコントロール)で調整します。また、音量を抑制する圧縮率はRATIO(レシオコントロール)で調整します。なお、RATIOを左いっぱいに戻すと音量はまったく抑制されず(最小圧縮率1:1)、右に戻すほど大きく抑制されます(最大圧縮率 : 1)。

ステレオチャンネルダucker機能について

会場にBGMが流れている最中に司会者や来賓が話しを始めてしまい、よく聞き取れないことがあると思います。このようなときは、BGMのボリュームを下げるか、司会者や来賓の使っているマイクのボリュームを上げるかする(またはその両方をする)必要があります。これでは、安心して本機の前を離れることができません。このような場合のためにチャンネル1と2には、ステレオチャンネルダucker機能があります。

これは、チャンネル1または2のマイクに音声が入ると、自動的にST入力端子(A/B)に接続したBGMなどの音量を下げる機能です。ただし、ステレオチャンネルダucker機能が働くのはチャンネル1,2の入力に対してのみで、チャンネル3~8の入力に対しては働きません。

チャンネル1,2の入力信号がしばらく途絶えると、BGMの音量は元に戻ります。

設定するときは、フロントパネルのチャンネル1と2の間にあるST CH DUCKERのON/OFFスイッチをON側に設定します。BGMの音量をどの程度まで下げるかは、その上にあるアッテネーターで調整します。つまみを右に回すほど音量が下がります。

ペイジング機能について

(緊急放送用インプットダucker)

各インプットチャンネル(1~8, ST)およびINSERT IN, STACK IN端子入力の信号をすべて遮断して、PAGING MIC/LINE入力端子に接続したマイク/ライン入力を出力する機能です。

PAGING MIC/LINE入力端子に緊急放送用のカセットデッキやマイクを接続しておけば、緊急時にテープを再生またはマイクを使用するだけで、優先して会場内に放送することができます。リアパネルにはペイジングCONTROL IN端子も装備し、緊急放送用のコントロール信号(DC 24V)にも対応しています。

PAGING MIC/LINE入力のゲイン設定はGAINコントロールで、音量設定はLEVELコントロールで行います。ペイジング機能が働き始める入力レベルの設定はTH(スレッシュールドコントロール)で調整します。THを右に戻すほど低い入力レベルでも動作します。

ペイジング機能のオン/オフは、ゾーン1,2独立して設定できます。

セットアップ例

接続例) 2つのゾーンで使う場合

MV800一台で、パーティー会場とカラオケルームの2部屋の音響をコントロールする例です。

接続は、必ずMV800および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

接続：ZONE 1

パーティー会場にはゾーン1を割り当てます。

- ① チャンネル1～4のINPUT端子にマイクを接続します。
* コンデンサーマイクロフォンを接続する場合は入力切替スイッチを“MIC(+48V)”に、それ以外のマイクを接続する場合は“MIC”にセットします。
- ② チャンネル3, 4のINSERT IN/OUT端子間にリバーブ(エコー)を接続します。
- ③ STチャンネルのINPUT端子AL・ARにカラオケ用のDVDプレーヤーを、INPUT端子BL・BRにBGM用のCDプレーヤーを接続します。
- ④ メインスピーカーをつないだパワーアンプをZONE 1出力端子に接続します。

録音用のカセットデッキをREC OUT端子1L・1Rに接続すると、パーティーの様子やカラオケの歌唱を録音することができます。

PHONES端子にヘッドフォンを接続すると、全体の音量バランスなどをモニターすることができます。

接続：ZONE 2

カラオケルームにはゾーン2を割り当てます。

- ① チャンネル5, 6のINPUT端子にマイクを接続します。
* コンデンサーマイクロフォンを接続する場合は入力切替スイッチを“MIC(+48V)”に、それ以外のマイクを接続する場合は“MIC”にセットします。
- ② チャンネル5, 6のINSERT IN/OUT端子間にリバーブ(エコー)を接続します。
- ③ チャンネル7, 8のINPUT端子にカラオケ用のDVDプレーヤーを接続し、入力切替スイッチを“LINE”にセットします。
- ④ メインスピーカーをつないだパワーアンプをZONE 2出力端子に接続します。

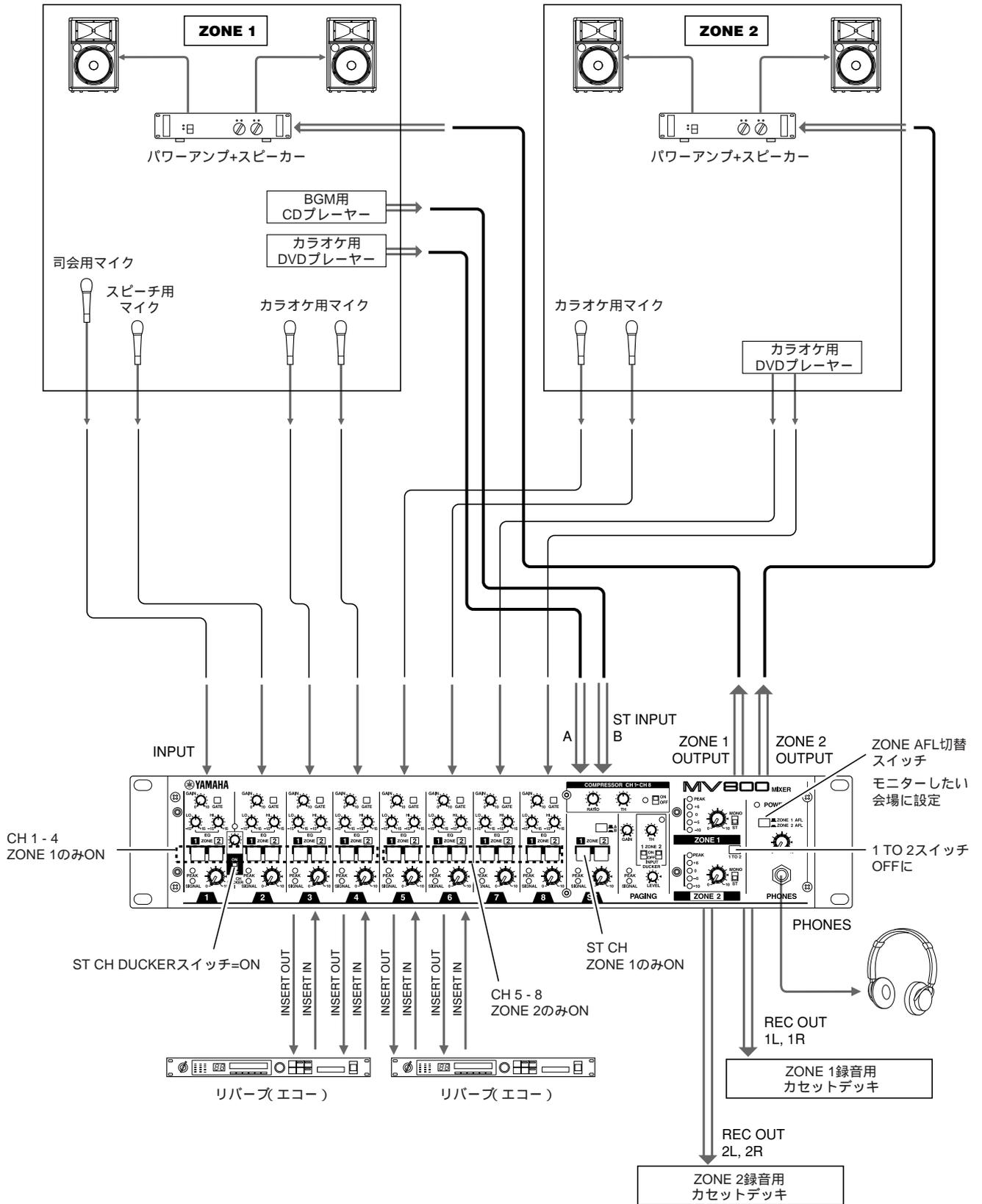
録音用のカセットデッキをREC OUT端子2L・2Rに接続すると、カラオケの歌唱を録音することができます。

PHONES端子にヘッドフォンを接続すると、全体の音量バランスなどをモニターすることができます。

接続ができたなら、入力機器側から順に電源を入れます。

この例の場合は、次の順序になります。

カラオケ用DVDプレーヤー	BGM用CDプレーヤー	リバーブ(エコー)	MV800
カセットデッキ	パワーアンプ		



* コンプレッサー、ペイジングは必要に応じて設定してください。

設定：ZONE 1

チャンネル1～4の設定

1. チャンネルボリューム = ◀、GATEスイッチ = オン (■) ZONE選択スイッチ = “ 1 ”だけオン (■) ZONE 1のゾーンボリューム = ◀、ST/MONO切替スイッチ = “ ST ”にセットします。
2. マイクに向かって話し、大きな声を出したときにPEAKインジケーターが点灯するように、GAINコントロールを調整します。
3. 必要に応じて、イコライザー (LO, HI) で音質を調整します。

STチャンネルの設定

1. チャンネルボリューム = ◀、ZONE選択スイッチ = “ 1 ”だけオン (■) にセットします。
2. ST入力切替スイッチを“ A (■) ”にし、カラオケ用DVDプレーヤーでDVDを再生します。大きな信号が入ったときにPEAKインジケーターが点灯するように、DVDプレーヤーの出力ボリュームを調整します。
3. ST入力切替スイッチを“ B (■) ”にし、DVDプレーヤーのときと同様にBGM用CDプレーヤーの出力ボリュームを調整します。

全体の調整

- ・コンプレッサーは、“ ON ”にすることをおすすめします。RATIOとTHの2つのコントロールで効き具合を調整してください。
- ・ステレオチャンネルダッカースイッチは“ ON ”にし、実際に音を出しながらアッテネーターを調整します。
- ・チャンネル間の音量のバランスは、各チャンネルボリュームで調整します。
- ・全体の出力レベルは、ZONE 1のゾーンボリュームで調整します。大きな信号が入ったときにレベルメーターのPEAKが点灯する程度に調整します。スピーカーの音量は、パワーアンプのボリュームで調整してください。
- ・必要に応じてペイジングも設定してください。
- ・PHONES端子にヘッドフォンを接続し、ZONE AFL切替スイッチを“ ZONE 1 AFL (■) ”にすると、最終出力をモニターできます。

設定：ZONE 2

チャンネル5, 6の設定

1. チャンネルボリューム = ◀、GATEスイッチ = オン (■) ZONE選択スイッチ = “ 2 ”だけオン (■) ZONE 2のゾーンボリューム = ◀、ST/MONO切替スイッチ = “ ST ”にセットします。
2. マイクに向かって話し、大きな声を出したときにPEAKインジケーターが点灯するように、GAINコントロールを調整します。
3. 必要に応じて、イコライザー (LO, HI) で音質を調整します。

チャンネル7, 8の設定

1. チャンネルボリューム = ◀、GATEスイッチ = オン (■) ZONE選択スイッチ = “ 2 ”だけオン (■) にセットします。
2. カラオケ用DVDプレーヤーでDVDを再生します。大きな信号が入ったときにPEAKインジケーターが点灯するように、DVDプレーヤーの出力ボリュームを調整します。
3. 必要に応じて、イコライザー (LO, HI) で音質を調整します。

全体の調整

- ・チャンネル間の音量のバランスは、各チャンネルボリュームで調整します。
- ・全体の出力レベルは、ZONE 2のゾーンボリュームで調整します。大きな信号が入ったときにレベルメーターのPEAKが点灯する程度に調整します。スピーカーの音量は、パワーアンプのボリュームで調整してください。
- ・PHONES端子にヘッドフォンを接続し、ZONE AFL切替スイッチを“ ZONE 2 AFL (■) ”にすると、最終出力をモニターできます。

付録

仕様

一般仕様

周波数特性 (ZONE OUTPUT)	20Hz ~ 20kHz 0 + 1dB, - 3dB @ + 4dB, 600 (GAINコントロール = 最小レベル)		
全高調波歪率 (ZONE OUTPUT)	< 0.1% (THD+N) @ + 14dB, 20Hz ~ 20kHz, 600		
ハム & ノイズ (Rs=150Ω, 20Hz ~ 20kHz, INPUT GAINコントロール = Max., INPUT PAD = OFF, 入力感度 = - 60dB) * @12.7kHz, 6dB/oct.のローパスフィルターにて測定 (@20kHz, 6dB/oct.フィルターに相当)	- 128dB	入力換算ノイズ	
	- 97dB	残留ノイズ	
	- 64dB (68dB S/N)	ZONE OUT : マスターボリューム & 1チャンネルボリューム = ノミナル	
	- 92dB (96dB S/N)	ZONE OUT : マスターボリューム = ノミナル、全チャンネルアサイン スイッチ = OFF	
最大電圧ゲイン	60dB INPUT (MIC)	INSERT OUT	
	16dB INSERT IN	ZONE OUT	
	76dB INPUT (MIC)	ZONE OUT	
	66dB INPUT (MIC)	STACK OUT	
	10dB STACK IN	ZONE OUT	
	58.2dB INPUT (MIC)	REC OUT	
	23.8dB ST INPUT	ZONE OUT	
	76dB PAGING INPUT	ZONE OUT	
モノラルインプットパッドスイッチ (LINE)	26dB		
モノラルインプットゲインコントロール	44dB 可変		
クロストーク at 1kHz	- 70dB 入力CH間 - 70dB 入出力間 (CH INPUT) - 50dB LR間 (ST CH INPUT)		
モノラルインプットイコライザー特性	最大可変幅 ± 15dB HIGH 10kHz シェルピングタイプ LOW 100Hz シェルピングタイプ * シェルピングタイプのターンオーバー/ロールオフ周波数: 最大可変幅に対し 3dB下がったポイント		
ペイジングインプットパッドスイッチ (LINE)	26dB		
ペイジングインプットゲインコントロール	44dB 可変		
モノラルインプットインジケータ	PEAK (赤): 各チャンネル、イコライザーの後段において信号レベルが + 17dBを 越えると点灯 SIGNAL (緑): 各チャンネル、イコライザーの後段において信号レベルがノイズゲ ートのスレッシュホールドレベルを越えると点灯		
ステレオインプットインジケータ	PEAK (赤): バッファアンプの後段において信号レベルが + 17dBを越えると点灯 SIGNAL (緑): バッファアンプの後段において信号レベルが - 10dBを越えると点灯		
コンプレッサーインジケータ	橙: コンプレッサー動作時点灯		
ステレオチャンネルダッカーインジケータ	橙: ステレオチャンネルダッカー動作時点灯		
ペイジングインジケータ	PEAK (赤): ヘッドアンプの後段において信号レベルが + 17dBを越えると点灯 SIGNAL (緑): ヘッドアンプの後段において信号レベルが - 10dBを越えると点灯 PAGING ON (橙): ゾーンインプットダッカーON時点灯		
レベルメーター	5ポイント (PEAK, +6, 0, -5, -10) x 2, 0 = +4dB ZONE OUT @600		
ファンタム電源	+ 48V (バランス入力)		
付属品	・ レッグ x 4 ・ ユーロブロックコネクタ 3P x 14 ・ セキュリティカバーセット (セキュリティカバー, ポストスクリュー x 4, セットスクリュー x 4)		
電源	100V AC 50/60Hz		
消費電力	40W		
最大外形寸法 (W x H x D)	479 x 88 x 325 mm (付属品を取り付けない状態)		
重量	7.2kg		

仕様、外観は改良のため予告なく変更することがあります。

0dB = 0.775Vrms

入力仕様

入力端子	PAD	GAIN コントロール	入力 インピーダンス	ノミナル インピーダンス	入力レベル			使用コネクタ
					感度 *1	ノミナルレベル	最大ノンクリップレベル	
CH INPUT (1-8)	MIC	MAX	3k	50~600 マイク & 600 ライン	- 72 dB(0.195mV)	- 60 dB(0.775mV)	- 40 dB(7.75mV)	XLR-3-31タイプ *2 ユーロブロックコネクタ *2
	LINE				- 46 dB(3.88mV)	- 34 dB(15.5mV)	- 14 dB(155mV)	
	MIC	MIN			- 28 dB(30.9mV)	- 16 dB(123mV)	+ 4 dB(1.23V)	
	LINE				- 2 dB(0.616V)	+ 10 dB(2.45V)	+ 30 dB(24.5V)	
ST INPUT [L・R](A, B)			10k	600 ライン	- 22 dB(79.4mV)	- 10 dB(316mV)	+ 10 dB(3.16V)	RCAピンジャック *3
PAGING	MIC	MAX	3k	50~600 マイク & 600 ライン	- 72 dB(0.195mV)	- 60 dB(0.775mV)	- 40 dB(7.75mV)	ユーロブロックコネクタ *2
	LINE				- 46 dB(3.88mV)	- 34 dB(15.5mV)	- 14 dB(155mV)	
	MIC	MIN			- 28 dB(30.9mV)	- 16 dB(123mV)	+ 4 dB(1.23V)	
	LINE				- 2 dB(0.616V)	+ 10 dB(2.45V)	+ 30 dB(24.5V)	
CH INSERT IN(1-8)			10k	600 ライン	- 12 dB(195mV)	0 dB(0.775V)	+ 20 dB(7.75V)	フォンジャック(TRS) *2
STACK IN [ZONE1, ZONE2]			10k	600 ライン	- 6 dB(388mV)	0 dB(0.775V)	+ 20 dB(7.75V)	フォンジャック(TRS) *3

*1. 入力感度：最大ゲイン設定時に定格出力が得られる最小レベル

*2. XLRタイプコネクタ、ユーロブロックコネクタ、フォンジャック(TRS) (T=Hot, R=Cold, S=Gnd) : バランス型

*3. RCAピンジャック、フォンジャック(TRS) (T=ZONE 1, R=ZONE 2, S=Gnd) : アンバランス型

0dB = 0.775 Vrms, 0dBV = 1Vrms

出力仕様

出力端子	出力 インピーダンス	ノミナル インピーダンス	出力レベル		使用コネクタ
			ノミナルレベル	最大ノンクリップレベル	
ZONE 1 OUT [L・R] ZONE 2 OUT [L・R]	150	600 ライン	+ 4 dB(1.23V)	+ 24 dB(12.3V)	XLR-3-32タイプ *1 ユーロブロックコネクタ *1
CH INSERT OUT(1-8)	150	10k ライン	0 dB(0.775V)	+ 20 dB(7.75V)	フォンジャック(TRS) *2
STACK OUT	150	10k ライン	0 dB(0.775V)	+ 20 dB(7.75V)	フォンジャック(TRS) *3
REC 1 OUT [L・R] REC 2 OUT [L・R]	600	10k ライン	- 10 dB(316mV)	+ 10 dB(3.16V)	RCAピンジャック *4
PHONES	100	40 フォン	30mW	75mW	ステレオフォンジャック(TRS) *5

*1. XLRタイプコネクタ、ユーロブロックコネクタ : バランス型

*2. フォンジャック(TRS) (T=Hot, R=Cold, S=Gnd) : インピーダンスバランス型

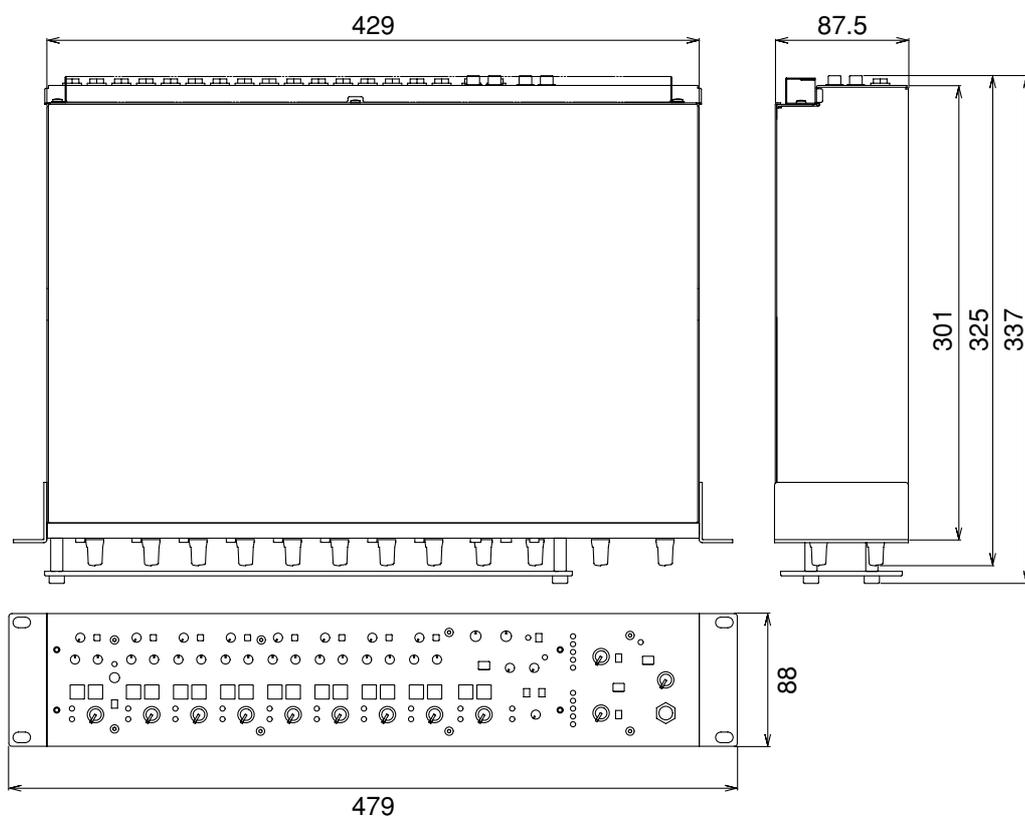
*3. フォンジャック(TRS) (T=ZONE 1, R=ZONE 2, S=Gnd) : アンバランス型

*4. RCAピンジャック : アンバランス型

*5. ステレオフォンジャック(TRS) (T=L, R=R, S=Gnd) : アンバランス型

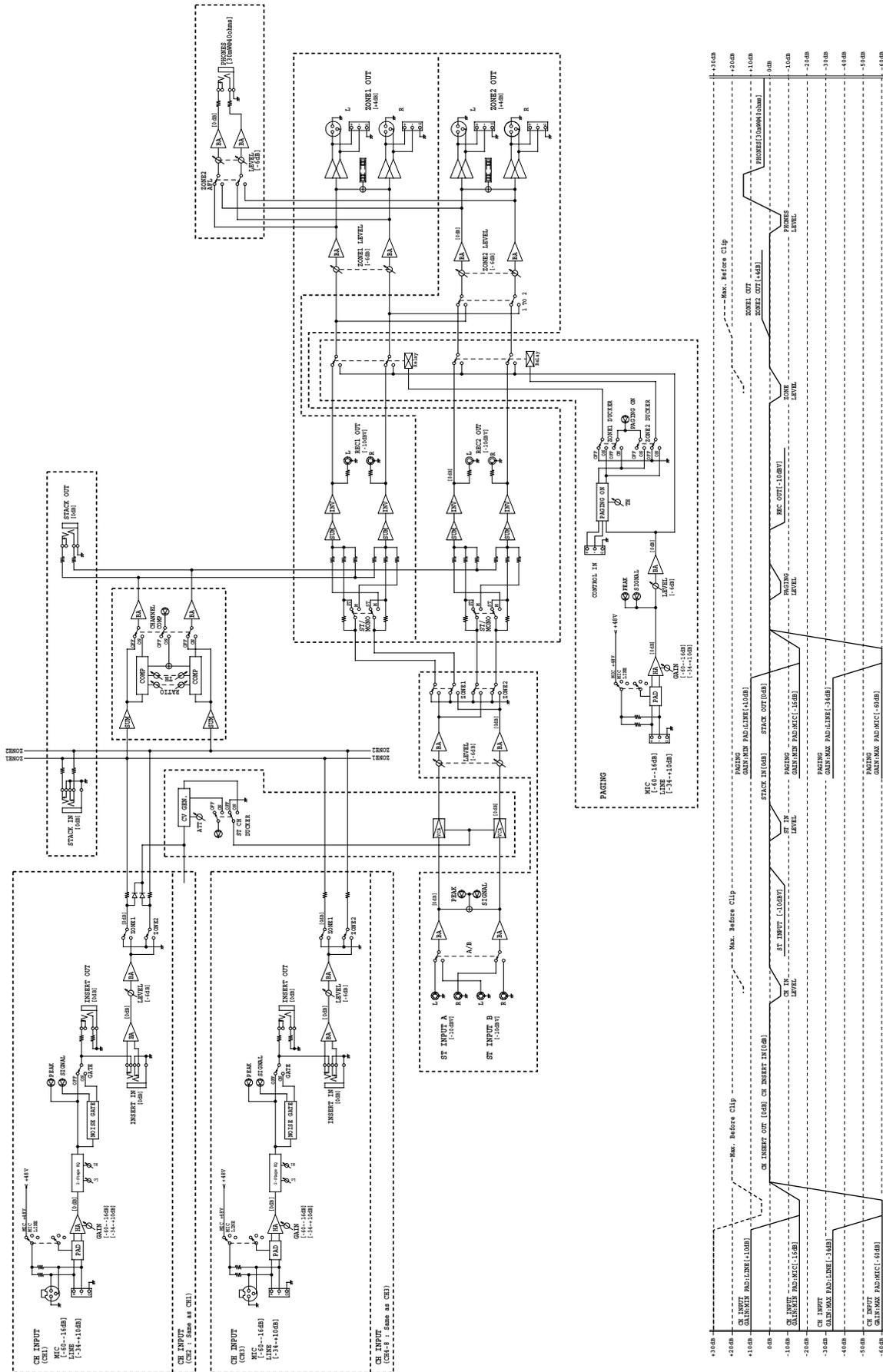
0dB = 0.775 Vrms, 0dBV = 1Vrms

寸法図



単位：mm

ブロック/レベルダイアグラム



サービスについて

保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-5085(電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

EM営業統括部(営業窓口)

営業推進課(プロオーディオ) ☎ 03-5488-5472 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
PA営業部

東日本営業所	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA北海道	☎ 011-512-6106	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
PA仙台	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
西日本営業所	☎ 06-6252-5405	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9
PA名古屋	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
PA九州	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4

PA・DMI事業部

PE営業部PA国内推進室 ☎ 053-460-2455 〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50	ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1	京浜トラックターミナル14号棟A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

2001年8月現在

